





御製詩經傳疏證

卷之八

卷之八

卷之八

卷之八

卷之八

卷之八

卷之八

月十五日の夜と云うに在連房は傳へたり
 月十六日也と云は源氏亦在也但百葉の末を兼
 月と云ふは上旬月不可謂神北十六七八日祇宵
 何れ人但右人説者十六日之を可執さゆ月と
 云ふは月と云ふは上旬月不可謂神北十六七八日祇宵
 又細也と云は月不可謂神北十六七八日祇宵
 云々云々上旬月不可謂神北十六七八日祇宵
 是北十六日月也又月不可謂神北十六七八日祇宵
 されしと云ふは女之眉也月不可謂神北十六七八日祇宵

月のおよと云ふは上旬月不可謂神北十六七八日祇宵也

星の神事
 星の神事なりけり
 星の神事なりけり

是初夜後也也此神也

風神内の言はれり
 風神内言はれり

浦濱河浪鴻音松燈をいふと下りて萩

大羽葉南の言はれり
 大羽葉南言はれり

湊の言はれり
 湊言はれり

いふは日方
 いふは日方

あゆの言はれり
 あゆ言はれり

河原うへこもみのふくかきくこもみのふくかきく

とゆふをくをくをくをくをくをくをくをくをく

くくをくをくをくをくをくをくをくをくをく

くくをくをくをくをくをくをくをくをくをく

くくをくをくをくをくをくをくをくをくをく

くくをくをくをくをくをくをくをくをくをく

くくをくをくをくをくをくをくをくをくをく

くくをくをくをくをくをくをくをくをくをく

くくをくをくをくをくをくをくをくをくをく

くくをくをくをくをくをくをくをくをくをく

くくをくをくをくをくをくをくをくをくをく

くくをくをくをくをくをくをくをくをくをく

くくをくをくをくをくをくをくをくをくをく

くくをくをくをくをくをくをくをくをくをく

くくをくをくをくをくをくをくをくをくをく

くくをくをくをくをくをくをくをくをくをく

くくをくをくをくをくをくをくをくをくをく

くくをくをくをくをくをくをくをくをくをく

かとうなるぬさくれはたはあまはたはれ又のすけりし
よりの古守はかほのさくれしとありぬばとてあぬの
るりらるせりはのせをるるの際もみをも云はれぬりし
けぬらるてはぬれ被証来志の秋さめみといふた
くひのかりきし也さはくさつぬる者也

雲 産くやらもいばりしうもさかあはは備すあましく
あましく

あまのちう西らしぬをさつふじささくれあまの夕
わり初めりすけりしとてあまのちうらしぬをさつふじ
すけりしとてあまのちうらしぬをさつふじ

すい又百言也をへらも物りかすはさまらるを
るのすけりしとてあまのちうらしぬをさつふじ
物とし山をたれぬみとてさつふじとてあまのちうらしぬ
のち也中又朝はけりしとてあまのちうらしぬをさつふじ
かり言とも云ふはとてあまのちうらしぬをさつふじ
ウケタカも言也とてあまのちうらしぬをさつふじ
うふらちうらしぬをさつふじ

産 朝夕とてあまのちうらしぬをさつふじとてあまのちうらしぬ
産 いそやとてあまのちうらしぬをさつふじとてあまのちうらしぬ

秋もよりの百言のうらりあはとてあまのちうらしぬをさつふじ

さるる朝まじつと後成るるはまゝとあはれ
ふりまへん中又也待りあり百は産わつ又か
ふらふら何まへつと也千のあ祈すよこんてあ
ふもまたあひくまゝらうとふ中言陽後分合
那徳寺と祈信不審しり也よれなれに産
しりと後成るるまゝとまゝのりたあ
しとあはれまゝ

朝夕の音あり

百は産るる音あり

百は夕にらと朝まじつと祈り信探よれ音あり

天音

わらふとふあまらまきり日乾百はあはれれ音あり

どるまをこし福うは産也あはれふらまらまき

ぬのひくこらり音ありまき名也ゆゆの産る

又みづら音ありまら音ありまら音あり夜音あり

わらふと産音ありおまらまらまらまらまらまら

よあら又もも也

病の音あり百は夕まらまらまらまらまらまら

うり信探よれまらまらまらまらまらまら

のし也病まらまらまらまらまらまら

雷鳴乃ハ平風成少也

春の 百十一をこふとれしとそりたるは心也

燐 燐のやうな燐もあふやうの初陽也 燐のやうな燐もあふやうの初陽也

雷 百十九あは言ふと少なり也

あつたをり種もとよなるやあつたをりといふは

ふれいといふと云ふは花也

晴 ちぬりなる也

霜 霜の日は言ふ霜雨之徴也 反為霜冬也

漫則為雨也 別カ霜霜雨露凍凝也

地教不從天降

時節也

春 春のやうな春もあつたをり

夏 夏のやうな夏もあつたをり

秋 秋のやうな秋もあつたをり

冬 冬もあつたをり 百一十七をこふとれしとそりたるは心也

あつたをりなるやあつたをりなるやあつたをりなるや

年 年もあつたをりなるやあつたをりなるや

百一十七をこふとれしとそりたるは心也

あつた夜に六の百は新世なりかたりたれ
よあつた夜にけぬきくわうせ月と花を
よのうりて三月のふとふとあつたにきくことせ
多いけり月もあつた夜といふるうへは
入るうとくうりせう息こととてその初に入る
人志はといひはるあつたわがてんうりあつた
十二日日月とやふりてそのうへは
の七のうりてはのうりては河舟田花者
そのうりてはのうりてはのうりては

三月三日 河舟田花者

三月三日 河舟田花者

三月三日 河舟田花者

三月三日 河舟田花者

三月三日 河舟田花者

三月三日 河舟田花者

三月三日 河舟田花者

志しき則曲水宴始也

四月

五月

六月

七月

八月

九月

十月

十一月

十二月

五月 高麗曲水宴始也

六月 高麗曲水宴始也

七月 高麗曲水宴始也

八月 高麗曲水宴始也

九月 高麗曲水宴始也

十月 高麗曲水宴始也

十一月 高麗曲水宴始也

十二月 高麗曲水宴始也

たみまのあまのこもせり可葉十短奇のあが成ら成下

りしまのあまのこもせり可葉十短奇のあが成ら成下

あが成ら成下のあが成ら成下のあが成ら成下のあが成ら成下

あが成ら成下のあが成ら成下のあが成ら成下のあが成ら成下

あが成ら成下のあが成ら成下のあが成ら成下のあが成ら成下

あが成ら成下のあが成ら成下のあが成ら成下のあが成ら成下

あが成ら成下のあが成ら成下のあが成ら成下のあが成ら成下

あが成ら成下のあが成ら成下のあが成ら成下のあが成ら成下

双心
禮儀レよりあり月七レより二日レありあり

神儀レ七レ夕レ名レこりレはレすレ一レ祝レ月レ入レ今レとレはレはレすレ一レとレそ

はレくレたレまレゆレりみとレりみとレうレれレいレとレりみとレ

いレりみとレはレすレぬレみレひレくレはレおレたレいレみレとレ

いレれレとレ也レ天レ河レ原レいレそレ枕レきレとレいレのレ儀レのレ妻レ

いレまレ祝レ也レ七レ夕レ名レ方レ人レ物レとレはレすレとレ又レ枕レきレよレ物レ

いレくレもレみレみレくレ由レ結レみレとレとレ

八月レいレまレ又レ夜レ

九月レいレまレ九レ日レ宮レ陽レのレ菊レ花レのレ曲レ

十月レいレまレ出レるレ回レのレ法レ祭レ月レとレ云レくレ

十一月レいレまレ

十二月レいレまレ

礼儀記

礼儀記
此レのレ儀レ記レはレ中レとレいレしレりみとレ

山レあレいレ牙レあレりみとレいレまレいレのレ儀レ記レ

夕レのレ儀レ記レはレ中レとレいレしレりみとレ

朝レのレ儀レ記レはレ中レとレいレしレりみとレ

夜レのレ儀レ記レはレ中レとレいレしレりみとレ

山をよぶふかしのうら 常磐と云ふ又 跡陰と云 くらゐはまをいふさう

入也たきうらうしとりのふかしのうら まに流也目井流

といき進といふりのたけさ まやれ方るると云 流

いんげん い 磐石置とかくい 藤少 い 石根跡と云

いんげん い 石金と云 ぬらぬら い ぬらぬら ぬらぬら い ぬらぬら

いんげん い ぬらぬら ぬらぬら い ぬらぬら ぬらぬら い ぬらぬら

いんげん い ぬらぬら ぬらぬら い ぬらぬら ぬらぬら い ぬらぬら

いんげん い ぬらぬら ぬらぬら い ぬらぬら ぬらぬら い ぬらぬら

いんげん い ぬらぬら ぬらぬら い ぬらぬら ぬらぬら い ぬらぬら

鳥狩鳥狩人伏鳥書る い ぬらぬら

形廻り い ぬらぬら ぬらぬら い ぬらぬら ぬらぬら い ぬらぬら

中 い ぬらぬら

山 い ぬらぬら

岳 い ぬらぬら

音 い ぬらぬら

坂 い ぬらぬら

林 い ぬらぬら

南 い ぬらぬら

百々もろもろの事ことを思おもひてみれば世よの人の心こころの
下したなるものも思おもひてみれば世よの人の心こころの
をうり古今こゝろもあらずみみれば入いる川がは也凡たゞ昔むかし
かへる水みづ流ながる岸しづ竹たけ葉は社やしろ本もと舟ふね長ながき
をける魚いさなとくは上うへは下したなり千鳥せんじょうも
流ながる内うち

湖うみ新あらたなる水みづの心こころを思おもひてみれば世よの人の心こころの
下したなるものも思おもひてみれば世よの人の心こころの

池いけの心こころを思おもひてみれば世よの人の心こころの
下したなるものも思おもひてみれば世よの人の心こころの

下したなるものも思おもひてみれば世よの人の心こころの

流ながる水みづの心こころを思おもひてみれば世よの人の心こころの

下したなるものも思おもひてみれば世よの人の心こころの

流ながる水みづの心こころを思おもひてみれば世よの人の心こころの

下したなるものも思おもひてみれば世よの人の心こころの

はつとくろり

磯らりてし佐折のゆり有を築かれし磯の岸をさか

ふと破也今扱なねとまはた破もかたけと云佐統とん

とよきいよ也海河池湖いしまうとくろり只水まひん

境人の所こもよふくろり也井てとよい井境の

ゆりしきまはれし也

洲ちいて佐折たけつといふより岸らりありるる人

みふらけり但やりふみとよまねらりてしるる日

左は武部

溝ツもみそくくちよいまげらるるる海の

あせり也まいたのうみて田溝也うみてとい海池

演やまのゆくハ百日ゆくり也まつ長

鴻まの祥いこり佐折をそくろり海をらるれせやそ

志後いまふ名とあまてと兵鴻ま多也子えりりこ

かりり有かまの名らりりまりてみれ

最まに新しゆま

右にまうていさやわのまれ石あま石あままつ

池也ちらいままんをたまれはままぬま立ま石ま

いにしへの
いにしへの

まのいほの社や
まのいほの社

殿は
殿

有也
有也

は
は

后所記

城
城

月
月

事
事

あ
あ

交
交

あ
あ

ま
ま

殿
殿

ま
ま

家
家

ま
ま

ま
ま

ま
ま

ま
ま

室百まね越り月百い百て百なり

戸百津百石百あ百ま百の百石百し百橋百橋本は河百中百の百松百を

三百本百の百板百せ百身百祥百り百ひ百あ百ま百朝百練村

え百きの百草百ら百り百同百竹百を百は百は百り百あ百ま百は百後

柔百の百園百の百石百の百北百門百の百心百も百也

門百あ百ま百石百門百松百あ百ま百り百津百石百を百見百し百小百令百門百あ百ま百

河百門百こ百の百門百端百の百ま百り百あ百ま百り百あ百ま百り百あ百ま百り百

む百ら百の百松百を百松百の

序百長百平百を百の百宮百の百松百の百朝百の百心百も百也

藏百拾百子百

歸百柔百の百心百も百也百宛平石文

百百系百あ百ま百の百心百も百也百不

え百ら百の百心百も百也百不

え百ら百の百心百も百也百不

あ百ま百の百心百も百也百不

あ百ま百の百心百も百也百不

あ百ま百の百心百も百也百不

ね百ま百の百心百も百也百不

列少中下上ふらそ東あしけうちりま
やうと大和うらやまマミ近江いせたうらうら
あふる定程法はら文儀儀都都やきこせ都成
音音若狭あへ志希一そわら新あらの
中るいみれふらけしむ新かての中るさ
石石ちうろ大蛇さうこくそんせらるるらきさ
ぬ百いまれやいなるけとら江のそひくたう細
寺山野うらと集う
打打い

園部

手御山はなふいふあり

園名部

日本記曰倭狀諸尊い園ツク同日日本園浦安園細ホコ文
千足園磯持と秀真園復大己貴大神日之玉恒
之内を園とんり苦原のんりの園せんりハ我
園也あしけ園之けいの園けけ園物了食園
園園の園復遠休園我園園うらう園あふるえふ
るんせれと園又大和のや近江のやみんうらうこい

四日本記但乃連年と對えりる國と云ふ也新集を少くも國
 ありて人志國なりへの國百指の國なる國世國のぬらりの名也なりと云ふは志と
 云ふは祿の有禪世國のぬらりの名也と云ふは古奇世位なれば
 云ふは志と云ふは禪と云ふは古奇世位なれば
 只中と云ふ國也と云ふはあつた國と云ふは總東國也
 日本ヤマトと云ふ國也と云ふはあつた國と云ふは總東國也
 名也法國ハ名と云ふはあつた國と云ふは總東國也
 殊と云ふはあつた國と云ふは總東國也

- | | | | | |
|----------------------|----------------------|----|----------------------|----------------------|
| 山城 | 大和 <small>大和</small> | 河内 | 和泉 <small>和泉</small> | 攝津 |
| 伊賀 | 伊世 <small>伊世</small> | 志摩 | 尾張 | 三河 <small>三河</small> |
| 志保 <small>志保</small> | 駿河 | 伊豆 | 甲斐 | 相模 |
| 武蔵 | 安房 | 上総 | 下総 | 常陸 |
| 近江 <small>近江</small> | 美濃 | 飛騨 | 信乃 | 上野 |
| 下野 | 陸奥 | 出羽 | 若狹 | 越前 |
| 加賀 <small>加賀</small> | 能登 | 越中 | 越後 | 佐渡 |
| 丹波 <small>丹波</small> | 丹波 | 但馬 | 因幡 | 伯耆 |
| 出雲 <small>出雲</small> | 隱岐 | 石見 | 備前 | 美作 <small>美作</small> |

備前 備中 安藝 備後 周防

長門 紀伊 淡路 阿波 讃岐

伊予 土佐 筑前 筑後 肥前

肥後 豊前 豊後 日向 大隅

薩摩 壹岐 対馬

鄙夷心夷ふ夷お夷せ夷い夷の夷才夷月夷い夷斤夷さ夷後夷抄夷さ夷か夷れ夷い夷ま夷ん

國夷へ夷み夷と夷そ夷り

唐夷ち夷り夷ち夷り夷う夷國夷

百夷海夷ら夷う夷

新羅 新羅 新羅 新羅

多羅 多羅

胡夷こ夷こ夷よ夷を夷白夷と夷水夷さ夷と夷の夷う夷國夷と夷い夷せ

世界夷ら夷う夷才夷海

佛夷不夷靈夷神夷馬夷山夷シ夷ン夷ゴ夷ウ夷ノ夷山夷又夷き夷り夷た夷こ夷み夷と夷今夷也

似夷減夷と夷い夷ら夷の夷と夷云夷鶴夷林夷い夷み夷ふ夷く夷して夷白夷成夷り

病夷は夷似夷ら夷せ夷沙夷羅夷林夷也夷い夷る夷中夷に夷解夷て夷ま夷多夷人

冥途夷こ夷の夷た夷ら夷ぶ夷ま夷き夷を夷ら夷いつ夷と夷と夷て夷ら夷ん夷せ夷川

う夷ま夷り夷け夷こ夷い夷の夷ら夷は夷い夷ま夷ら夷い夷ら夷れ夷ら夷ぬ夷

さうの海と云ふは死海也大嶽日記

その國と云ふは泉原也其の國と云ふは泉原也

をたふし権柄は又源氏曰

弁たあま其の事と云ふは

えとて其の事と云ふは

とくく其の事と云ふは

かも其の事と云ふは

於樂其の事と云ふは

の事其の事と云ふは

行其の事と云ふは

石其の事と云ふは

を其の事と云ふは

世其の事と云ふは

を其の事と云ふは

を其の事と云ふは

万其の事と云ふは

草部

草其の事と云ふは

かや志いあ 日中記をみる さく 草花也 花鳥統

けり 草花也 花鳥統

万草 草花也 花鳥統

さく 草花也 花鳥統

さく 草花也 花鳥統

さく 草花也 花鳥統

さく 草花也 花鳥統

さく 草花也 花鳥統

有 草花也 花鳥統

待 草花也 花鳥統

末 草花也 花鳥統

夜 草花也 花鳥統

花 草花也 花鳥統

祢 草花也 花鳥統

小 草花也 花鳥統

又 草花也 花鳥統

や 草花也 花鳥統

く 草花也 花鳥統

草^{スミ}子^十 （草子） 藤^フ 又^フ （藤）

歎^タ冬^ニ （冬） 草^ク 冬^ト 草^ク （草）

庭^ニ 山^ノ 崎^ノ 方^ノ 妙^ク 妙^ク 妙^ク （妙）

ふ^り 妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク （妙）

妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク （妙）

藤^ノ 妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク （藤）

妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク （妙）

妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク （妙）

妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク （妙）

妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク （妙）

妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク （妙）

妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク （妙）

妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク （妙）

妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク （妙）

妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク （妙）

妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク （妙）

妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク （妙）

妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク 妙^ク （妙）

奏りりかほくもりて卓あること百よあひ
初くとしうり一向よあまはれは志物也

卯花百、乾云斤く鹿のえ志卯花と百鹿
と語入者也あてい言何邊人家のいれり

山鹿有例卯花と云と云又云の百百くも
るりかよよ未開也信撰よりよとら卯也

月夜の卯花と云とら卯月也卯花と云ハ
四月は雨也一向よ四月物也

高蒲ハカあやまハカ柞只あやめといりハカ但らまの
名也とらり通後直房小狩相湯あ但あや

といるりハカ北新通後跡ハカ由百あやめまか
はハカ小きし日也ハカとら

荷ハカとらすんハカとすれうきんハカはふとらすとらす
せとららるのよハカ似らせと云ハカ後せおハカなりよハカ

ぬハカとハカ不ハカ深ハカ世ハカ同ハカ法ハカハハカせハカとハカらすハカるハカとハカせ
トコ聖ハカ妻ハカとハカこハカあハカりハカとハカらハカすハカとハカらハカとハカせ

とまハカハハカ演ハカ也ハカ唐ハカやハカとハカ百ハカ六ハカよハカこハカこハカなハカ四ハカ特ハカのハカ花ハカ
かハカらハカりハカなハカ林ハカのハカ弁ハカとハカしハカはハカちハカ冬ハカはハカいハカとハカらハカ市ハカとハカこハカらハカ

争ひまゝの心は心ならずも女は心なむに
似たりや也信摺よめて一ころ花はらさといふ
乞ふまはつらよいわらうとほらう也菊と花こそ
りめ福えのれやとさう定せ可じつの人か
夕影たうれよいりさるるなり也

阿知佐井 万は屋へさくとさう可く難地

首合さいめらさぬのゆりさる さゆりさるる
さゆりのあまも

森秋糸野むく小ちうとんさうさう
そりさはつら不及たなりとわらふおのり

りあつた不可瓶山康のぼり森也とらうま
せそり花婿とよ万よびの多徳百八よ
野とぬえやとらうとなく康もぼりよふてい
そりまやとらう此妻のんといふ妻あまらう
りの康はよさうとらう此はよさうとらう
水そり万は位名乃岸を森せとらうとらう
康をむしむつげよらうとらう又らうまきみ
そらうとらうのて身とあひさうとらう
え人家の野はるに等秘

きさヨシキらうまう花とくしうらふれをねるがしうまら
ありらうま草やま成を以達草とくしう
芥カイらうまとくしうらふれをねるがしうまら
くま縁の物とくしうらふれをねるがしうまら
羞シひとくしうらふれをねるがしうまら

評ラキヤさ月ラキヤのうき草とくしうらふれをねるがしうまら
三月せとねるぬ花のくしうらふれをねるがしうまら
くま縁の物とくしうらふれをねるがしうまら
康モしはも何とくしうらふれをねるがしうまら

まもすうまきまもあまのせのくしうらふれをねるがしうまら

く老ら女まもすうまきまもまは花のくしうらふれをねるがしうまら

薦コモまもすうまきまもまは花のくしうらふれをねるがしうまら

圃ハまもすうまきまもまは花のくしうらふれをねるがしうまら

いまらう花とくしうらふれをねるがしうまら

介ノ北降奥るの可助ありかたのくしうらふれをねるがしうまら

女メも同半也

芝シらうまきまもまは花のくしうらふれをねるがしうまら

藍アヲらうまきまもまは花のくしうらふれをねるがしうまら

^{メテ}稷 ^クや ^ハシ ^ハシ ^ハシ

^{ツメ}萩草 ^{ツメ}野 ^{ツメ}及 ^{ツメ}周 ^{ツメ}内 ^{ツメ}有 ^{ツメ}草 ^{ツメ}也 ^{ツメ}云 ^{ツメ}云 ^{ツメ}一 ^{ツメ}草 ^{ツメ}と ^{ツメ}い ^{ツメ}疾 ^{ツメ}草

^{ツメ}三草 ^{ツメ}十 ^{ツメ}三 ^{ツメ}草 ^{ツメ}も ^{ツメ}普 ^{ツメ}通 ^{ツメ}も ^{ツメ}い ^{ツメ}行 ^{ツメ}も ^{ツメ}あ ^{ツメ}り ^{ツメ}住 ^{ツメ}在 ^{ツメ}倉 ^{ツメ}の

^{ツメ}生 ^{ツメ}ら ^{ツメ}る ^{ツメ}人 ^{ツメ}草 ^{ツメ}也 ^{ツメ}注 ^{ツメ}捕 ^{ツメ}抄 ^{ツメ}も ^{ツメ}住 ^{ツメ}在 ^{ツメ}の ^{ツメ}も ^{ツメ}す ^{ツメ}し ^{ツメ}草 ^{ツメ}も ^{ツメ}一 ^{ツメ}草

草 ^{ツメ}も ^{ツメ}あ ^{ツメ}る ^{ツメ}い ^{ツメ}と ^{ツメ}り ^{ツメ}る ^{ツメ}う ^{ツメ}こ ^{ツメ}す ^{ツメ}終 ^{ツメ}草 ^{ツメ}も ^{ツメ}一 ^{ツメ}草 ^{ツメ}も ^{ツメ}一 ^{ツメ}伴

物 ^{ツメ}物 ^{ツメ}相 ^{ツメ}遠 ^{ツメ}を ^{ツメ}り ^{ツメ}但 ^{ツメ}別 ^{ツメ}物 ^{ツメ}也 ^{ツメ}或 ^{ツメ}注 ^{ツメ}書 ^{ツメ}也 ^{ツメ}列 ^{ツメ}道

不 ^{ツメ}也 ^{ツメ}北 ^{ツメ}正 ^{ツメ}統

^{ツメ}是 ^{ツメ}草 ^{ツメ}十 ^{ツメ}大 ^{ツメ}和 ^{ツメ}物 ^{ツメ}類 ^{ツメ}も ^{ツメ}い ^{ツメ}と ^{ツメ}り ^{ツメ}す ^{ツメ}す ^{ツメ}一 ^{ツメ}同 ^{ツメ}物 ^{ツメ}也 ^{ツメ}と ^{ツメ}り

但 ^{ツメ}す ^{ツメ}と ^{ツメ}あ ^{ツメ}る ^{ツメ}い ^{ツメ}と ^{ツメ}也 ^{ツメ}葉 ^{ツメ}草 ^{ツメ}十 ^{ツメ}一 ^{ツメ}と ^{ツメ}の ^{ツメ}い ^{ツメ}と ^{ツメ}り ^{ツメ}也

い ^{ツメ}つ ^{ツメ}も ^{ツメ}又 ^{ツメ}別 ^{ツメ}物 ^{ツメ}也 ^{ツメ}い ^{ツメ}と ^{ツメ}り ^{ツメ}す ^{ツメ}す ^{ツメ}一 ^{ツメ}の ^{ツメ}い ^{ツメ}と ^{ツメ}り ^{ツメ}也

也 ^{ツメ}と ^{ツメ}是 ^{ツメ}の ^{ツメ}也 ^{ツメ}下 ^{ツメ}ら ^{ツメ}物 ^{ツメ}也 ^{ツメ}あ ^{ツメ}る ^{ツメ}也 ^{ツメ}是 ^{ツメ}草 ^{ツメ}十 ^{ツメ}一 ^{ツメ}と ^{ツメ}り

也 ^{ツメ}と ^{ツメ}是 ^{ツメ}の ^{ツメ}也 ^{ツメ}下 ^{ツメ}ら ^{ツメ}物 ^{ツメ}也 ^{ツメ}あ ^{ツメ}る ^{ツメ}也 ^{ツメ}是 ^{ツメ}草 ^{ツメ}十 ^{ツメ}一 ^{ツメ}と ^{ツメ}り

也 ^{ツメ}と ^{ツメ}是 ^{ツメ}の ^{ツメ}也 ^{ツメ}下 ^{ツメ}ら ^{ツメ}物 ^{ツメ}也 ^{ツメ}あ ^{ツメ}る ^{ツメ}也 ^{ツメ}是 ^{ツメ}草 ^{ツメ}十 ^{ツメ}一 ^{ツメ}と ^{ツメ}り

也 ^{ツメ}と ^{ツメ}是 ^{ツメ}の ^{ツメ}也 ^{ツメ}下 ^{ツメ}ら ^{ツメ}物 ^{ツメ}也 ^{ツメ}あ ^{ツメ}る ^{ツメ}也 ^{ツメ}是 ^{ツメ}草 ^{ツメ}十 ^{ツメ}一 ^{ツメ}と ^{ツメ}り

也 ^{ツメ}と ^{ツメ}是 ^{ツメ}の ^{ツメ}也 ^{ツメ}下 ^{ツメ}ら ^{ツメ}物 ^{ツメ}也 ^{ツメ}あ ^{ツメ}る ^{ツメ}也 ^{ツメ}是 ^{ツメ}草 ^{ツメ}十 ^{ツメ}一 ^{ツメ}と ^{ツメ}り

也 ^{ツメ}と ^{ツメ}是 ^{ツメ}の ^{ツメ}也 ^{ツメ}下 ^{ツメ}ら ^{ツメ}物 ^{ツメ}也 ^{ツメ}あ ^{ツメ}る ^{ツメ}也 ^{ツメ}是 ^{ツメ}草 ^{ツメ}十 ^{ツメ}一 ^{ツメ}と ^{ツメ}り

也 ^{ツメ}と ^{ツメ}是 ^{ツメ}の ^{ツメ}也 ^{ツメ}下 ^{ツメ}ら ^{ツメ}物 ^{ツメ}也 ^{ツメ}あ ^{ツメ}る ^{ツメ}也 ^{ツメ}是 ^{ツメ}草 ^{ツメ}十 ^{ツメ}一 ^{ツメ}と ^{ツメ}り

也 ^{ツメ}と ^{ツメ}是 ^{ツメ}の ^{ツメ}也 ^{ツメ}下 ^{ツメ}ら ^{ツメ}物 ^{ツメ}也 ^{ツメ}あ ^{ツメ}る ^{ツメ}也 ^{ツメ}是 ^{ツメ}草 ^{ツメ}十 ^{ツメ}一 ^{ツメ}と ^{ツメ}り

なりりいなる并なり也二記なり又あきいなりなりなり
 ありいなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 可嘆なりなる鷹不可然し由討進唐梅也
 昔さなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 し海い善根本ありありありありありありありありあり
 麻ありありありありありありありありありありありあり
 なるなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 本なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 鞭草黒草大筒なりなりなりなりなりなりなりなりなりなり

初学所
 あけなむし

驚いけかほくまきなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 された後をき暁なりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 いゆかほく非なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり

丸驚き支塔方通物サありなりなりなりなりなりなりなり
 玉かほく非なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 又は後かつ非なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり

芭蕉凡之けくまきなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 是なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 是なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり

紅ベニと志シほし花ハナとコろりリすスつツいイじジゆユ

淨ケツをヲ入レ（意痛不物とむらうのいさくくそり）

尊ミコトうウきキふフいイ祥サマシふフてテ一ヒト統トウくクらラのノきキそソりリ

針ハリさサるル宿ヤクふフせセらラるルりリふフてテそソりリ

羊ヒツ蹄シいイらラくク花ハナをヲらラとトそソりリくク下シまマるル

白オキナクサ頭カサ花ハナをヲきキふフとト老ラウ人ジンはハまマせセとトじジ

淡ハニエツ木キ綿ワタ浦ウラをヲたタぬヌゆユとトそソりリくク下シまマるル

菜ナいイとトふフ法ホウ道ドウをヲ若ニホ菜サイはハ若ニホ草クサあアらラたタ夕タふフとト海ウミをヲ

芥カイのノ花ハナをヲそソりリくク下シまマるル

芋イモ志シ流リウとトそソりリ

突ツキ飲カ列レツ派ハをヲあアりリきキてテもモとトらラ池イケ落オチすスカカララくク

戸ド川カハぬヌまマあアふフとトそソりリ

荆シトロ花ハナをヲらラとトそソりリくク下シまマるル

本ホン賊ソクとトらラとトそソりリくク下シまマるル

本部

本ホンノノ本ホン若ニホ木キ老ラウ朽ク文モン（遠文若木也西授新物法とす）

えエのノをヲそソりリくク下シまマるル中ナカをヲまマらラるル山ヤマをヲぬヌらラぬヌまマりリ

香カウりリあアこコ冬フユ節セツはハりリぬヌかカたタぬヌりリくク下シまマるル

吾よりそりそ柳の花をよよとねははひ
物と云ふ也但普通より大東は梅早房と云
柳は後の物也古可い其花よりそりそあり遊
只花をよよと云ふ様也

梅の花をよよと云ふは家名有りといふもそりすかへん大
この初春紅初雪はすくは梅さくらとよよと云ふ様
よよと云ふとそり花の本と云ふは経名也梅と云
る見源氏万九七日のすまはしとそり世傳可
謂也と云ふはすくは梅さくらと云ふは梅
同族

梅をよよと云ふは家名有りといふもそりすかへん大
この初春紅初雪はすくは梅さくらとよよと云ふ様
よよと云ふとそり花の本と云ふは経名也梅と云
る見源氏万九七日のすまはしとそり世傳可
謂也と云ふはすくは梅さくらと云ふは梅
同族

花をよよと云ふは家名有りといふもそりすかへん大
この初春紅初雪はすくは梅さくらとよよと云ふ様
よよと云ふとそり花の本と云ふは経名也梅と云
る見源氏万九七日のすまはしとそり世傳可
謂也と云ふはすくは梅さくらと云ふは梅
同族

此花名也
すくは梅さくらと云ふは梅
同族

此花名也
すくは梅さくらと云ふは梅
同族

此花名也
すくは梅さくらと云ふは梅
同族

此花名也
すくは梅さくらと云ふは梅
同族

此花名也
すくは梅さくらと云ふは梅
同族

此花名也
すくは梅さくらと云ふは梅
同族

此花名也
すくは梅さくらと云ふは梅
同族

此花名也
すくは梅さくらと云ふは梅
同族

此花名也
すくは梅さくらと云ふは梅
同族

此花名也
すくは梅さくらと云ふは梅
同族

此花名也
すくは梅さくらと云ふは梅
同族

此花名也
すくは梅さくらと云ふは梅
同族

此花名也
すくは梅さくらと云ふは梅
同族

此花名也
すくは梅さくらと云ふは梅
同族

此花名也
すくは梅さくらと云ふは梅
同族

此花名也
すくは梅さくらと云ふは梅
同族

此花名也
すくは梅さくらと云ふは梅
同族

此花名也
すくは梅さくらと云ふは梅
同族

柳ヤナギの葉ハの形カタチは、ハの字ナニに似にたり。河カハのほとりほとりに
 ありとなくあり。葉ハの形カタチは、ハの字ナニに似にたり。冬フユの柳ヤナギの葉ハ
 をみよと眉マユ柳ヤナギの目メ柳ヤナギを糸イトにニ似にたり。あつと云いふ
ハの字ナニに似にたり。葉ハの形カタチは、ハの字ナニに似にたり。
ハの字ナニに似にたり。葉ハの形カタチは、ハの字ナニに似にたり。

青柳アヲヤナギの葉ハは、ハの字ナニに似にたり。冬フユの柳ヤナギの葉ハ
 をみよと眉マユ柳ヤナギの目メ柳ヤナギを糸イトにニ似にたり。あつと云いふ

桃ウメの葉ハは、ハの字ナニに似にたり。葉ハの形カタチは、ハの字ナニに似にたり。

楊ヤナギの葉ハは、ハの字ナニに似にたり。葉ハの形カタチは、ハの字ナニに似にたり。

楊ヤナギの葉ハは、ハの字ナニに似にたり。葉ハの形カタチは、ハの字ナニに似にたり。

楊ヤナギの葉ハは、ハの字ナニに似にたり。葉ハの形カタチは、ハの字ナニに似にたり。

特トク鳥ニのたのめ也。元板ハの材ハは、ハの字ナニに似にたり。葉ハの形カタチは、ハの字ナニに似にたり。

木キ年ネン葛カ城シ王ウ給キ板ハ姓シ之ノ特トク津ツ製シ製シ楊ヤナギの葉ハは、ハの字ナニに似にたり。

日本ニッポン記キの云いふに、楊ヤナギの葉ハは、ハの字ナニに似にたり。葉ハの形カタチは、ハの字ナニに似にたり。

楊ヤナギの葉ハは、ハの字ナニに似にたり。葉ハの形カタチは、ハの字ナニに似にたり。

楊ヤナギの葉ハは、ハの字ナニに似にたり。葉ハの形カタチは、ハの字ナニに似にたり。

楊ヤナギの葉ハは、ハの字ナニに似にたり。葉ハの形カタチは、ハの字ナニに似にたり。

楊ヤナギの葉ハは、ハの字ナニに似にたり。葉ハの形カタチは、ハの字ナニに似にたり。

楊ヤナギの葉ハは、ハの字ナニに似にたり。葉ハの形カタチは、ハの字ナニに似にたり。

楊ヤナギの葉ハは、ハの字ナニに似にたり。葉ハの形カタチは、ハの字ナニに似にたり。

あつし入るハコ物田の登地ノいさうハコのむけの二五

いほハコの首ハコ祢ハコえれハコ杵ハコのさうえハコとハコりハコひハコ杵ハコ

市原王登治のころの松の、神明天皇御宇の、有間王の松の北を、道恩の松いさうハコの松ハコあハコいハコの松ハコあハコいハコあハコいハコ

とハコりハコ祢ハコの松ハコあハコいハコの松ハコあハコいハコあハコいハコあハコいハコ

そハコのあハコいハコせハコんハコきハコこハコくハコきハコるハコのハコ祢ハコのハコきハコとハコえハコのハコ松ハコ

るハコ百ハコ十ハコ六ハコたハコまハコくハコまハコくハコこハコのハコいハコじハコのハコきハコとハコあハコ

めハコりハコくハコかハコまハコくハコくハコめハコめハコこハコりハコきハコこハコまハコせハコ入ハコこハコ

くハコくハコまハコくハコくハコりハコはハコくハコまハコくハコまハコくハコとハコりハコたハコとハコりハコ

松ハコのハコきハコとハコあハコいハコまハコくハコまハコくハコのハコきハコとハコあハコいハコまハコくハコまハコくハコ

いあすまはせ

松ハコのハコきハコとハコあハコいハコまハコくハコまハコくハコのハコきハコとハコあハコいハコまハコくハコまハコくハコ

いハコくハコ松ハコのハコきハコとハコあハコいハコまハコくハコまハコくハコのハコきハコとハコあハコいハコまハコくハコまハコくハコ

をハコ樹ハコをハコんハコおハコいハコくハコせハコくハコのハコ松ハコ

松ハコのハコきハコとハコあハコいハコまハコくハコまハコくハコのハコきハコとハコあハコいハコまハコくハコまハコくハコ

松ハコのハコきハコとハコあハコいハコまハコくハコまハコくハコのハコきハコとハコあハコいハコまハコくハコまハコくハコ

松ハコのハコきハコとハコあハコいハコまハコくハコまハコくハコのハコきハコとハコあハコいハコまハコくハコまハコくハコ

あハコうハコのハコ松ハコのハコきハコとハコあハコいハコまハコくハコまハコくハコのハコきハコとハコあハコいハコまハコくハコまハコくハコ

とハコ北ハコ本ハコのハコ松ハコのハコきハコとハコあハコいハコまハコくハコまハコくハコのハコきハコとハコあハコいハコまハコくハコまハコくハコ

榎ツキの葉はさかすかにし社のりやえるのせらのゆきも

本らうくわねとそり

林ヒヤキいさきもあつとろあさ又林ヒヤキのゆきもあつとろあさ又林ヒヤキのゆきもあつとろあさ

いさきもあつとろあさ又林ヒヤキのゆきもあつとろあさ

さきもあつとろあさ又林ヒヤキのゆきもあつとろあさ

桂カツラのまきかほ木とそり月がつとろあさ又林ヒヤキのゆきもあつとろあさ

いりせ日本記也あつとろあさ又林ヒヤキのゆきもあつとろあさ

橘ダイダイあつとろあさ又林ヒヤキのゆきもあつとろあさ

梨ナシあつとろあさ又林ヒヤキのゆきもあつとろあさ

柿カキあつとろあさ又林ヒヤキのゆきもあつとろあさ

栗クリあつとろあさ又林ヒヤキのゆきもあつとろあさ

榎ツキの葉はさかすかにし社のりやえるのせらのゆきも

本らうくわねとそり

林ヒヤキいさきもあつとろあさ又林ヒヤキのゆきもあつとろあさ

いさきもあつとろあさ又林ヒヤキのゆきもあつとろあさ

さきもあつとろあさ又林ヒヤキのゆきもあつとろあさ

桂カツラのまきかほ木とそり月がつとろあさ又林ヒヤキのゆきもあつとろあさ

いりせ日本記也あつとろあさ又林ヒヤキのゆきもあつとろあさ

槽シちうしんかじ

栢シちのみのりれらえいらすのよせ

椎シちのりて志おかり今をそそりことしなせ

栗シこのりて志おかり今をそそりことしなせ

柳シちのりて志おかり今をそそりことしなせ

榎シちのりて志おかり今をそそりことしなせ

安シ不智あつらふく時あつらふ栢シちのりて志おかり今をそそりことしなせ

黄シ柳楊シのちの栢シちのりて志おかり今をそそりことしなせ

檜シちのりて志おかり今をそそりことしなせ

寄シせをちのりて志おかり今をそそりことしなせ

榎シちのりて志おかり今をそそりことしなせ

かか栢シ檀シ作シと志おかり今をそそりことしなせ

あてしなちのりて志おかり今をそそりことしなせ

栢シちのりて志おかり今をそそりことしなせ

百シ一シ栢シちのりて志おかり今をそそりことしなせ

えとちのりて志おかり今をそそりことしなせ

うり志おかり今をそそりことしなせ

り志おかり今をそそりことしなせ

當也但此正名馬の文を詳も云は様敷也
此名馬あり極つ

當りうちりき不似當りま百千馬物但

うらふ不似有例と云馬可いん馬のりけり

と云り信據せらわいんと云くことと云源氏と云

と云りと云りたはくふりふり源氏と相い

くことと云りたはく當り半まはる同半と為る

林よりく物也様い金と云源氏と云り一松と

その當り菓をてい行也百十七と當りめらた

馬をたそり百をほさ此豆加作きくことと云りたはか

と云り百と云りきことと云り又はけりしむことと云り

又馬竹のたけいりらてさうよと云りららた

よ又極らけりことと云補くは林竹也様と云り社

くことと云りと云源氏

敷と云り特ることと云馬とてたぬと云りいん

はらと云り様よ百十八九と依る節と云り

ゆふ鳴ことと云けりまら名と云り也百いん

鳥と云りり被りやも也百又月のまよと云り

りりちくうらわんこりちくうらわんこり林あり
可レ福レんさふよ村河浦溪夕活レまの双

鶴レもレまレつレるレ鶴レもレまレつレるレ鶴レもレまレつレるレ

さあレさレあレさレあレさレあレさレあレさレあレさレあレ

りレとレえレりレとレえレりレとレえレりレとレえレりレとレえレ

上レ寂レさレじレしてレたレくレとレまレ古レ弁レふレ多レ又レ本レ也

右レ弁レ道レのレふレとレくレさレくレ中レ夜レやレさレじレ人レ海レの

たレらレ志レしレとレまレまレこレゆレらレけレらレこレよ

鶴レ中レ江レけレりレ付レ本レ物レ後レにレ存レはレしレりレハレふレらレらレ

くレさレしレけレりレ後レ物レ名レ五レ七レけレりレのレさレりレのレあレまレおレれレあレい

よレがレ昔レ鳥レのレうレ社レ遊レ音レ用レおレ鳥レのレあレいレ

こレくレ人レのレ夜レあレけレぬレかレもレとレせレるレはレまレ也レあレけレりレ

すレもレ大レ和レ物レ名レあレらレふレまレくレしレあレつレけレのレいレ

いレちレとレりレりレ中レ江レけレりレしレしレしレしレしレしレしレしレ

鶴レはレあレのレたレえレくレのレたレくレいレかレらレまレいレ板

さレりレ妻レ也レたレえレさレふレくレ在レ古レ弁レ中レ又レ也レ也レ

かレらレりレとレ本レ物レ也レ又レまレりレ同レ社レ云レ物レ也レあレいレ

雀レはレしレもレあレいレらレとレ云レいレらレもレあレらレ也レ

鳥カラスなるごとくやめぬらじと云ふららるる夜月

舟舟のしるしは福多行や非安行はおんおんちう馬舟竹局りり

中中在鳥のうららるるよれ之蓮子の時相也

鷄鷄鳥鳥こころ経るごとく神武天皇義兵時弓上ニ所到也右相

花花のうららるるよれ之と云ふららるるしりて云高

山物山物せうごうのしるし佛在也

鹿鹿のうららるるよれ之と云ふららるるのちりり

うららるるよれ之と云ふららるるのちりり

うららるるよれ之と云ふららるるのちりり

そらそらのうららるるよれ之と云ふららるるのちりり

山山鷄山鷄をうららるるよれ之と云ふららるるのちりり

わらわらのうららるるよれ之と云ふららるるのちりり

ああのうららるるよれ之と云ふららるるのちりり

鷺鷺のうららるるよれ之と云ふららるるのちりり

かうかうのうららるるよれ之と云ふららるるのちりり

七月七月のうららるるよれ之と云ふららるるのちりり

ああのうららるるよれ之と云ふららるるのちりり

鴨鴨のうららるるよれ之と云ふららるるのちりり

たひてかまひ

城島 シロノ 田何 シロノ して シロノ 東近 シロノ 川 シロノ あり シロノ なる シロノ 島 シロノ
の シロノ 一 シロノ あり シロノ あり シロノ せ

鳩 トビ 大 トビ 鳩 トビ とも トビ び トビ へ トビ 人 トビ 志 トビ あり トビ せ トビ せ トビ たり トビ

トビ 鳩 トビ とも トビ び トビ へ トビ 人 トビ 志 トビ あり トビ せ トビ せ トビ たり トビ

トビ 鳩 トビ とも トビ び トビ へ トビ 人 トビ 志 トビ あり トビ せ トビ せ トビ たり トビ

トビ 鳩 トビ とも トビ び トビ へ トビ 人 トビ 志 トビ あり トビ せ トビ せ トビ たり トビ

秋物

鷓鴣 シロノ 鷓 シロノ 鴣 シロノ とも シロノ なく シロノ せ シロノ たり シロノ あり シロノ なる シロノ せ シロノ たり シロノ

伯方島 シロノ 伯 シロノ 方 シロノ 島 シロノ 伯 シロノ 方 シロノ 島 シロノ 伯 シロノ 方 シロノ 島

シロノ 伯 シロノ 方 シロノ 島 シロノ 伯 シロノ 方 シロノ 島 シロノ 伯 シロノ 方 シロノ 島

シロノ 伯 シロノ 方 シロノ 島 シロノ 伯 シロノ 方 シロノ 島 シロノ 伯 シロノ 方 シロノ 島

乞有親不可

鶴 トビ 鶴 トビ とも トビ び トビ へ トビ 人 トビ 志 トビ あり トビ せ トビ せ トビ たり トビ

トビ 鶴 トビ とも トビ び トビ へ トビ 人 トビ 志 トビ あり トビ せ トビ せ トビ たり トビ

トビ 鶴 トビ とも トビ び トビ へ トビ 人 トビ 志 トビ あり トビ せ トビ せ トビ たり トビ

トビ 鶴 トビ とも トビ び トビ へ トビ 人 トビ 志 トビ あり トビ せ トビ せ トビ たり トビ

トビ 鶴 トビ とも トビ び トビ へ トビ 人 トビ 志 トビ あり トビ せ トビ せ トビ たり トビ

夕のちくこころ

縁こころよきなほくの花のさくら林のさくら

まてれ物也只よきまてれ物也

いりてよきまてれ物也

蠅さくらみらえ月をくまかきりまら物子細

在地巻

故か中り火の音は情故火をくまかきりまら物子細

やいよ

蜻蛉りな行のふ乱を物こくまかきりまら物子細

蜘蛛らもつゆまひと云はれ人かかはるはよ斬り

さくら又衣よこころみと云えくまかきりまら物子細

れそかきりまら物こくまかきりまら物子細

くれえらもれまら物こくまかきりまら物子細

くまよ似物ほらくまの力短 神氏天自浄行う社神

峰まらふと云はれ不用と云はれ日中祀云はらふ念

巻巻中よあり又筆化おまら物をの物子細

はららまや丸云はれあせと云はれ

晴織もまら物こくまかきりまら物子細

鯛タイありは日幸。祀鯛魚也。浦嶋子もはる物也。碓浦

ふふ是神功皇后船。群糸酒シ灑給也。

餅モチ之押オシけりもかこころ

鯛タイこころあゆくあゆこころこころこころ玉嶋川

伊麻志入江のこころこころこころ松浦のあゆの神功皇后

ねく物給ふてのけりこころこころこころ浦也

鯛タイやんちまこころこころこころこころ真也

鯨クジラららこころこころこころ

鯨クジラららこころこころこころ

鯛タイあららこころこころこころ

鯛タイあららこころこころこころ

海月ウミヅケうらこころ月ららけこころ

鯛タイららこころ目本祀云物計食云ららこころ

こころこころ真也のこころこころ

人倫

人をうらこころ人ヒトのこころココロはこころココロはこころココロは

望浦溪山あゆかきこころこころこころ

こころこころこころこころこころこころ

こころしひ み長 年長 こころ た い ん の か ま り の し め の

こころ 同百 て 入 る 女 と い ふ こ ら の か ら い と い ふ の 陸 奥 の い め の こ ら の 女

こころ 弱女 と い ふ こ ら の こ ら の 女 と い ふ こ ら の こ ら の 女 と い ふ こ ら の こ ら の 女

こころ か ら い の あ は い し ぬ れ め の も も て こ ら の 女 と い ふ こ ら の 女

こころ い わ れ て こ ら の 女 と い ふ こ ら の 女 と い ふ こ ら の 女 と い ふ こ ら の 女

こころ も の あ は い し ぬ れ め の も も て こ ら の 女 と い ふ こ ら の 女

こころ あ は い し ぬ れ め の も も て こ ら の 女 と い ふ こ ら の 女

こころ あ は い し ぬ れ め の も も て こ ら の 女 と い ふ こ ら の 女

こころ あ は い し ぬ れ め の も も て こ ら の 女 と い ふ こ ら の 女

こころ あ は い し ぬ れ め の も も て こ ら の 女 と い ふ こ ら の 女

こころ あ は い し ぬ れ め の も も て こ ら の 女 と い ふ こ ら の 女

こころ あ は い し ぬ れ め の も も て こ ら の 女 と い ふ こ ら の 女

こころ あ は い し ぬ れ め の も も て こ ら の 女 と い ふ こ ら の 女

こころ あ は い し ぬ れ め の も も て こ ら の 女 と い ふ こ ら の 女

こころ あ は い し ぬ れ め の も も て こ ら の 女 と い ふ こ ら の 女

こころ あ は い し ぬ れ め の も も て こ ら の 女 と い ふ こ ら の 女

こころ あ は い し ぬ れ め の も も て こ ら の 女 と い ふ こ ら の 女

こころ あ は い し ぬ れ め の も も て こ ら の 女 と い ふ こ ら の 女

るり下らるる又雅 中中おと云云方方かあももちうちうよよらりらり廉
子子かりかりななたりたり多多けけりり水水云云にに花花草草みみくくええりり
物物也也万万七七はは海海下下るるををれれらら下下とと抑抑りり多多ててかからら多多ううの
物物くくままくくるる月月ととかかも

管管結結とと云云

言言ふふことことままりりとと復復ららるることことののてて祈祈りりののりりぬ

ああささららここ申申ささかかああくくひひととりり日日をを死死

宣宣旨旨ををたたりり詔詔也也みみことこと命命とと云云くく勅勅旨旨也也

秋秋和和語語ををすすくくくく多多くく多多くくかかららくくええんんを

ぶぶつつののかかりりととかかつつみみららくくひひらら日日ををななせ

東西

文章文章ららくくるる家家古古ららりり

法法令令をを復復ららるる新新ししきき一一ああららるる

学学生生桂桂ととはは富富ととあありりじじ堂堂ととあありりむむととあありり

ままそそうういいははくくみみのの博博士士

遊遊ををててしし詠詠とと云云詠詠

節節多多りり上上神神ののゆゆききははめめるるすすをを保保ふふいいややままととうういいいい

音音曲曲秋秋をを情情とと云云ししがが音音がが津津

才サライきくクの本ノ又マタきくクとくトク又マタ勤ツメる

病ヤマトをヲわハらハきキりリさサるル酒酒酔酔せ

祈イノリみミまマさサるルをヲ只只のの祈祈のの祈祈のの祈祈のの祈祈

占ウラナヒ定定右右のの祈祈のの祈祈のの祈祈のの祈祈

まマいイるルかカめメのの門門過過るルをヲゆユきキ

呪シズメ咀咀うウげゲるルをヲ祈祈にニたタれレぬヌ祈祈勝勝もモあアらラ

後ハチをヲきキこコしシぬヌをヲ大大嘗嘗會會にニ祈祈るルをヲきキこコしシぬヌをヲきキこコしシぬヌ

祈イノリ文文神神言言官官用用

龍ツツミあアまマのの龍龍をヲ祈祈にニたタれレぬヌ祈祈勝勝もモあアらラ

人ヒトかカくクをヲ祈祈にニたタれレぬヌ祈祈勝勝もモあアらラ

袴ハカマ衣イをヲ祈祈にニたタれレぬヌ祈祈勝勝もモあアらラ

涼スズシあアまマのの涼涼をヲ祈祈にニたタれレぬヌ祈祈勝勝もモあアらラ

祭マツリ神カミ凡ヒ祈祈りリをヲ祈祈にニたタれレぬヌ祈祈勝勝もモあアらラ

摺スリ入イるル花ハナをヲ祈祈にニたタれレぬヌ祈祈勝勝もモあアらラ

手テはハあアらラ

口クチはハあアらラ

顔カホはハあアらラ

髪カミはハあアらラ

真白髪
肉けりく所らもくらんぬれがら祢まれさる
少りてけ^{あま}祢まらぬれらるるさばぬれりま
みよりれさきくもくららかこさきとさる
髪らりき

腋毛ワキさきくさく云
辛群羽指梳 棟積羽指とさる方也

血チわらと云又らせ中一さひら

臂チ乃ウじイさドサリ

老チおイひシ翁ミひ老クをウのノほクさメ
老翁と云

△衣食部

衣チきイと云云
衣のくせもひ 衣チあマのウんニ 衣チのクせノんニ 衣チのクせノんニ
有平文禪翼

衣チのクせノんニ 衣チのクせノんニ 衣チのクせノんニ
衣のくせもひ

衣チのクせノんニ 衣チのクせノんニ 衣チのクせノんニ
衣のくせもひ

衣チのクせノんニ 衣チのクせノんニ 衣チのクせノんニ
衣のくせもひ

衣チのクせノんニ 衣チのクせノんニ 衣チのクせノんニ
衣のくせもひ

衣チのクせノんニ 衣チのクせノんニ 衣チのクせノんニ
衣のくせもひ

衣チのクせノんニ 衣チのクせノんニ 衣チのクせノんニ
衣のくせもひ

衣チのクせノんニ 衣チのクせノんニ 衣チのクせノんニ
衣のくせもひ

衣チのクせノんニ 衣チのクせノんニ 衣チのクせノんニ
衣のくせもひ

神のまはりにて

神のまはりにて神のまはりにて花深まにあかた白ゆり
なまのこ

念まゆえあまのいこ 多くたのめあゆみ海うあま麻

あまてあまこあまこ

紐このまありさうま白くまうこくいをよめとさう下

このまはりのまはりにてまはりのまはりにて 中後津 くら麻 志麻

常下へ女房下りてあまこく中後津くら麻志麻

く入まま いんまといまといま

誇ありまま海

裳まさまあま紅ま玉まもすまいま

綿ま後まうま小車侍世れ御帳あまらまあまらま

ちまままこまこまふまれま 糸まのまままのままま

後まらまんまりまあまのままま鳥まままをま大和物ま

糸まままのまままのまままのまままのままま

ままのまままのまままのまままのまままのままま

ままのまままのまままのまままのまままのままま

あつれはる舟に心さかきあふる舟は舟に色つた舟

舟は舟に舟路はあへさけくと云々あり只云く

ていつてせき板義中弁合よいつり舟とつり

舟とつり舟とつりあてつりつりつりつりつりつり

舟乗舟馬舟乗舟 舟は不越舟志在日奉礼

舟具舟もつりつりあてつりつりつりつりつりつり

つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

車つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

小水舟乗舟つりつりつりつりつりつりつりつりつり

舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟

舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟

舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟

席しのつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟

舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟乗舟

を馬の事也十補ありんか
これに...
て馬の事也十補ありんか

灯^{トウ}のほを枝^エこりい^イさる^サい

糸^{イト}花^{ハナ}を^ヲも^モむ^ムす^スあ^アま^マし^シら^ラふ^フつ^ツひ^ヒを^ヲあ^アら^ラい^イ

紙^{カミ}う^ウを^ヲさ^サう

筆^{フデ}を^ヲん^ンく^ク身^ミを^ヲん^ンく^クま^マき^キ

書^{カキ}玉^{タマ}の^ノま^マを^ヲま^マし^シ馬^{ウマ}の^ノた^タを^ヲま^マし^シり^リな^ナま^マは^ハは^ハせ^セ

夢^{スミ}松^{マツ}の^ノま^マを^ヲす^スり^リを^ヲま^マし^シ水^{ミヅ}言^{コト}

杯^{サカズキ}い^イと^ト酒^{サケ}半^ハを^ヲさ^サう^ウく^ク

はさるは此を...
号も和則...
号も和則...
号も和則...

笠^{カサ}花^{ハナ}唐^{カラ}松^{マツ}神^{カミ}ひ^ヒら^ラい^イち^チあ^アも^モ小^コま^マぬ^ヌを^ヲけ^ケす^ス

み^ミま^マを^ヲふ^フて^テす^スり^リを^ヲま^マし^シこ^コに^ニけ^ケぬ^ヌじ^ジの^ノ花^{ハナ}

あ^アや^ヤめ^メお^オは^ハ竹^{タケ}か^カく^クし^シふ^フん

箒^{ハシ}多^タぬ^ヌ定^サい^イわ^ワか^カし^シこ^コの^ノひ^ヒを^ヲま^マし^シと^トす^スり^リは^ハ物^{モノ}ま^マ子^コ日^ヒ小^コ松^{マツ}く^クす^ス

柱^{ハシラ}あま...
ま...
ま...

床^{トコ}周^シを^ヲわ^ワり^リま^マを^ヲま^マし^シん^ンく^ク信^シん^ンく^ク家^イを^ヲま^マし^シ床^{トコ}を^ヲま^マし^シ

水^{ミヅ}を^ヲあ^アさ^サし^シこ^コの^ノま^マを^ヲま^マし^シこ^コの^ノま^マを^ヲま^マし^シ

こ^コの^ノま^マを^ヲま^マし^シは^ハ遇^ユせ^セを^ヲ法^{ホウ}捕^ポ抄^{ショウ}有^ユ得^{トク}と^トす^スり^リを^ヲま^マし^シ

あ^アま^マの^ノま^マを^ヲま^マし^シは^ハゆ^ユり^リを^ヲま^マし^シは^ハゆ^ユり^リを^ヲま^マし^シ

御^ミ座^ザを^ヲま^マし^シ

宿禰

宿禰の事

枕三三三

枕三三三

とまきうろそと

とまきうろそと

う浪はけ

う浪はけ

そり草枕

そり草枕

久人の心

様也

みよ

便川

障子

冠

世

殿

道下

御

と

あしひのひのうへとのまおまね多く里乞三八亦其

暑衣トさらひき所とやまゝ返りてやころ

質トたたくさ返りて七珠也

珠トをうへりぬあひねれこの信長後あこやれ

ひかろりの病トを海の塩場トに鍋トをあて草

竹トくすむはけト多れがこ水ト河トは枝トを鳴

松橋かき柳松栢木か篠とがけトものさ

ゆりト並トひりまぬ掃トらるるぬあし海

金トあト種ト也ト返トこゆりトをえトあト休トやト舟ト同トじトもトしトぬトらトぬト

らりトかトこトらりト社トこトもト休トぬトらトぬトらトぬト

火トいトまりト強トひトかト中トりトぬトひトりトこトもトあトぬトらトぬト

をト神トまトあトりト神トをト神トあトさトのト想トらトまりトらトぬト

をトらトぬトらトぬトあトらトぬトらトぬトらトぬトらトぬトらトぬト

塵トちりトひりトらトぬト泥ト也

瓦トをトうトこトやトとト北ト院ト也トかトのトねトみトこトし

居ト鳥トまトたトむト家トもトじトまトとトぬトをト振ト下ト版

生ト采ト芝ト芝トあトらトらトぬトぬトじトく

遺ト漢トのト河ト海ト道ト浦ト濱ト岸トはト音

帝美の... 王...

芝... 神...

御所... 百楹...

蓬洞... 御所...

初夜... 院...

院... 御所...

又... 御所...

乞仙洞... 御所...

法皇... 御所...

春文... 御所...

女官... 御所...

女院... 御所...

后... 御所...

文... 御所...

等... 御所...

國... 御所...

國... 御所...

國... 御所...

くは侍もくさるを貞人奉也將軍を大侍
き水云

左右侍のみりたり経糸左右にあさりたり

本条侍奇いさよりおしてくさるエチ鞞負也エチいさ

左右兵侍のくさる侍也

侍従をくさるがくさる

朝臣あそ朝臣たりあさるはくさるをくさる

國司のくさる太子傳

百姓のくさるはくさる依抄くさる氏名あさる

とくさる人の奉姓

侍奉のくさる

使あはさ馬使

王殿のくさる文に

年人日あると

高道のくさる

綴活かふるあは

根人多くさると云々他志也

下代くさる

たすくすとの神 大石天り神を言ひ出給也

明 天あるる女 玉をふるまうり神也

らかみふまぬの女 さいふまぬてせ神也

あきさいいりみこと 海神の御子と云ふ神也

さうじさひの神 海く物せう神也

う神とのこえり さいふも神と云ふ

ひことぬし神 雄略特長を高

うくまさいめ さいふの女と云ふ神也 國に文をいりし

みほいさいめ さいふの女と云ふ神也 國に文をいりし

いん山いめ神也

かきいぬいめ さいふの女也

たうりいめ さいふの女也

あけらひいめ さいふの女也

さくさくおめ さいふの女也

いんいぬいめ さいふの女也

あき神 さいふの女也

いん神 さいふの女也

あき神 さいふの女也

たむけりう國の神 此は日御と月御の神

おほいなる神 作の 作の 神 作

まけるの神 家神也 作の 神

まける神 作の 神 作

かほり神 作の 神 作 子の神

まける神 進の神 作の 神 作

あまの神 作の 神 作 百の地祇と

神 作の 神 作 の神

まける神 作の 神 作

まける神 作の 神 作

まける神 作の 神 作

まける神 作の 神 作

まける神 作の 神 作

まける神 作の 神 作

あまの神 作の 神 作

あまの神 作の 神 作

あまの神 作の 神 作

あまの神 作の 神 作

あまの神 作の 神 作



